



第 2 号
平成15年 8 月 発行
発行責任者
平 澤

亦文化の中で

△云 巨長 平 澤 宝 恵

梅雨はまだ明けきらぬ七月のある日、事務連絡のため母校同窓会事務局長、中村先生に電話を入れた。携帯に転送されたらしく多少聞き取りにくい所があったが、『中村です。今大変なんです。』と興奮した声、すかさず『八対〇で勝っているんですよ』そうだ今日は夏の甲子園大会の県予選会での事であった。

後日の新聞で十対〇のコールド勝ちが大きく報道された。その後の対抗でも見事勝ち進んでいた。この執筆後には更なる成果を期待し、大いなる声援を送りたい。今や、学校教育は、義務教育学校をはじめ高校、大学等変化に揺れ動いている。そんな中、母校春高も百周年を基軸に時代の要請に適合した開か

総論△云に大勢出席しても、りう方策

本部事務局長 中 村 行 生

大勢の学年の同期会よりも、少人数のクラス会のほうが、普通は行きたくなるものだと思います。行けば知っている顔が必ずいるはずだからでしょう。

ところが、今年の同窓会総会は、そんな常識をやぶる大勢の方々が集まってくれました。過去最多の二百八十八人の会員が総会に出席し、その後の懇親会では急ぎたくさんの椅子を運びこんで、やっと開会となったほどの盛況でした。

その逆に、大きな集まりになればなるほど、人はなかなか出席しませんが、賛助金を頂戴した人を

これは、賛助金を頂戴した人を

れた学校としての特色を發揮している。

県立高校のなかで屈指の進学校でありながら運動部も盛んで、豊かな人格を備えた卒業生が社会に巣立っていくものと思う。

葛蒲春高会も七年目を迎え、年一回の集まりですが、役員を中心に年々その広がりを見せています。今年も九月七日(日)に総会、懇親会を、別添要領により開催致します。

葛蒲春高会は、若い層が多く、社会にあつては、幹部として又中堅として全国各地で活躍されています。したがって責任上、大変ご多忙の事と思いますが、時間が許されましたらぜひご出席ください。皆様のご健勝、ご活躍をお祈りします。

ホームカミングデーの学年と並んで招待したことに第一の要因があるのですが、今年から総会を盛り上げるための総会幹事支部を決めて、半年の間いろいろな方に出席をお願いしてきたことも大きな要因だと思っております。

平成十八年度は、葛蒲を含めた十の春高会が幹事支部になりますので、その際はぜひよろしく願います。

「春高同野球球部の活躍」

中山 茂 豆 三 司 甲 力

今回の、夏の高校野球埼玉大会では、春高が大活躍しました。一回戦での三十点以上の大量得点を皮切りに、ついにベスト8にまで登りつめました。後輩たちのたくましさにとっても感心しうれしく思いました。

私が春高生の時、校内の何かの大会で、応援部が、春高野球部が甲子園に出場したという想定で、応援実況をやったことがありました。私は当時から、春高が甲子園に行く確率は非常に低いと思っていましたので、その応援実況も単なる空想物語でした。

ところが、今年の春高は、創部以来百年以上で最高のベスト8になったのです。結局、準々決勝で惜敗いたしました。したが、その直前には、私も春高野球部が甲子園に立っている姿をほんのちょっと夢見てしまいました。

でも、昔の倍以上の数の参加校の中、また昔以上にレベルの上があった埼玉大会で好成績をあげた春高野球部は、昔甲子園に(次頁)

出場した学校と同じくらいの実力と価値があるんだ、と私自身思っています。

「海外交流のひとつこしま」

平 沢 卓

自営の小規模店主は皆そんなもの、と一纏めに云えまいが、読んだり書いたりする事にとても苦労する。切りをのばしても無駄だ。夜は休むものと決つけて、先へ進まない。丁度夏祭りの時に催された中学生の国際交流が無事終り、その時やつの事で用意した別れの詞を要約する事にします。

「ローズバークからお出の皆様、今宵再度お会いしますね。大変お疲れでしょう。菖蒲の印象はいかがでした？外国の風俗習慣を恒問見る事は大変興味深い事です。皆無事を祈ります。」

「級友 故十人熊俊十人君」

堀 部 和 政 (百一十七回卒)

年末の深夜に駐車場への近道のため、県庁内を急いでいたら、庁舎から大熊俊夫君が出てきた。最終電車の時間のため二言三言交わしただけだった。小生の学年は、本町からは、大熊君と二人だけであり、毎日、バスや時には自転車と一緒に通学をした

仲だ。彼は大変な勤勉家だった。が、ガリベンではなく、彼の周りには人が集まり笑い声が絶えなかった。弁護士になるのだと中央大学の法学部に入学をした。くしくも小生の大学の隣だった。昼休みに屋上でバレーボールをして遊んでいたら、ボールが七

階下の歩道に落ちてしまい、雷を覚悟でそれを拾いに行ったら、彼が笑顔でボールを差し出してくれた。この時もゼミの時間があるからと、二言三言だった。

その彼が、県庁に入庁したことを知ったのは、教員であった彼の

幸運の星の下で

第十八回卒

岡 安 正 一

小学生の頃、自宅の庭に出て、夜空に輝く星々をながめていると甘酸っぱい、不思議な気分が全身をつつみ、時がすぎていったのを記憶している。二五才、アメリカ、シアトルにいた頃、アメリカの友人と夜間にカナダへ向かってドライブ旅行に行った時、後部席からうしろの窓越しに夜空を見上げてみると、瞬時に消えゆく流れ星をいくつとなく発見し、万感の思いに襲われたのを記憶している。

あの青春の一時よりはや三〇年が過ぎ去っている。その時々々の憧れや志は、年月の経過の中で、自分なりの生活スタイルを実現しただろうか？今の仕事、楽しみ……いろいろ考えてみると自分は「幸運の星の下」の人生を送ってこれたのかと思う。と同時に自分以外の多くの方々にどれだけお世話になってきたか、その感謝の気持ちをこれからの生き方、仕事の上で一つつつ実現していきたいと思う。

雑 感

昭和二二九年卒

小 山 典 宏

私は、職場を春日部市に定めてから約五年になり、業界団体や商工会議所の会合に出席する機会も増えました。

懇親会にも参加しますが、その席上でなんとなく春高OBだけで輪をつくっていることに気付くことがあります。

そのような会合のあと開かれる

高校時代のことを話す(次頁)

よりも、昨今の話題などの雑談が多いのですが、高校の同窓というだけで、見知らぬ者同士が旧友に会ったように語り合うこともしばしばです。

こんな経験は、春日部市を中心に仕事をしている余録ですが、今更ながら春高の求心力に驚き、畏

時代の流れにのりきれなくて

平 沢 栄 蔵

東電のトラブル隠しで電力供給が危ぶまれていたが、今のところ涼しい日が続く特に関心はなさそうである。これを機に会社では省エネに取り組んでいるが、今の時代電気が供給されなくなったらどうなるのか想像し難い。

一方、情報源として欠かせないのがインターネットと携帯電話である。パソコンは早くから使い始めていたため、会社で端末を与えられメールでの情報交換は抵抗なく受け入れることができた。パソコンを使い始めた頃は、ソフトとしては、一太郎やロータス程度であったが、度重なるバージョンアップや新しいソフトの開発で、パソ

敬の念を抱きます。

高校野球の埼玉予選準々決勝の試合前の時間に、東武野田線の大宮行に乗りましたが、車内は春高生ばかりで、試合を見に行けなくても、思わず「頑張れ」と胸中で叫びました。

コンでプレゼンテーションする時代となり、若い人たちにお任せである。携帯電話の普及はめざましく、我が家でも私以外の家族は持っている。私は、必要ないから持たないことにしていた。

しかし、会社では社内だけで通じるピッチを持たされた。家庭でも娘がイギリスへ一年間留学することになり、娘の携帯を譲り受け、持つ羽目になった。習慣づいてないためか、家でも会社でも持ち歩くことをつい忘れる。便利な時代に乗り遅れてしまうのかもしれない。今年五四歳、まだまだチャレンジすべきことが多そうだ。

涼しくて熱い7月

第二一回生

萩 野 勝

例年になく涼しい7月。しかし春日部高校卒業生にとっては、実に燃えた夏であった。野球部創設一〇一年にして初のベスト8進出。準々決勝で惜敗した、その聖望が優勝したことを考えると、十分実力のあったすばらしいチームであったことは間違いない。それにも増して今年のチームには、思い入れが強かった。それは、同じマンションに住むお子さんが春高野球部でレギュラーとして活躍していたこと。それに加え、私の教え子も部員にいたこと。だから今年こそ、母校の活躍をスタンドで応援

競争激化の波

文 扇 藤 武 雄

来春の県立高校の入試から通学区が廃止され、どの学校でも自由に選べるようになりました。入試をめぐる制度が大きく変わる中で、魅力ある学校づくりが一層求められようとしております。

私立志向が強い今日ではあるが、最近の不況下で、授業料の安い県立高校の需要が再び高まりつつあります。このような中で通学区

する夢を実現するぞと意気込んでいた。そのチャンスは、二度あった。四回戦シード校東和大昌平との対戦と、そして聖望との試合。ところが、両日ともわが家の二人の息子たちの試合と重なってしまったのだ。一瞬、迷ったが、やはり我が子の方を選ぶことにした。母校を巣立って二五年。在学時を含め、まだの一度もスタンドで応援したことがない。いつか、スタンドで若人らとともに校歌を歌いたいと思う。それまでは、この菫蒲春高同窓会で歌い続けることにしよう。

の廃止が県立高校においても、高校間の競争を一層激化させようとしております。当然のことながら自然淘汰の波に洗われ、高校の統廃合につながっていくものと思われまます。このような中で、質実剛健、文武両道の精神に溢れた伝統ある春日部高校のさらなる発展を願っております。

最近の話題では、夏の(文扇)

高校野球選手権では、野球部創設以来初のベスト8進出ということ、久しぶりに一喜一憂をさせていただきました。

葛蒲春高会においては、ほんの

☆ 総会△△、懇親会△△

のし案内

来たる九月七日(日)には、ご案内の通り恒例により、定期総会を開催いたします。

また、総会終了後、楽しい懇親会も開催します。

懇親会では、母校の思い出話や卒業後の様子などが紹介され、有意義な楽しい一時を過ごすことができます。

特に、今夏は、母校野球部の活躍で大いに盛り上がりました。運動部には、切っても切り離せない応援団OB指導による、校歌合唱が、今年も、格別の趣があると思えます。

皆さんのご参加をお待ちしています。

☆ 平成十五年度

定期総会・懇親会

九月七日(日)

午後五時半より

割烹 あやめ亭

小さな組織ではありますが、今後とも小さいながらもいつまでも輝き続ける「葛蒲春高会」となるよう微力ながら協力させていただきたいと思えます。

☆ 名簿の作成上、ご連絡頂いた方については、確認、訂正してありますが、その後変更等がありましたらご記入ください。

.....

事務担当だより

☆ 平成十五年度役員

顧問	中山 登司男
会長	平澤 憲
副会長	平澤 卓
副会長	堀部 和政
副会長	岡安 正一
監事	小山 典宏
監事	平澤 栄蔵
幹事	荻野 一勝
幹事	野本 順也
幹事	黒川 哲也
事務局	斎藤 武雄
事務局	蓮見 秀夫

☆ 今までの状況についてご報告

します。

総会出席 十名余

会費納入 二十名余

返信 三十名余

このような状況ですが、毎年度百名余の会員に、ご案内を差し上げています。

会費の大半を通信費として支出しています。

昨年に引き続き、会報第2号をお届けいたしますので、ご一読賜わりますようお願い申し上げます。また、どんな事でも結構ですので、ご意見、ご要望等お寄せください。お待ちしております。

ひとこと

蓮見 秀夫

(高校三回卒)

名簿を見て、自分の名前が最初のページに載っていた。

先輩がもっと大勢いると思っていたので、正直、驚いている。

現実には、厳しいもので、年齢も大台に乗ってしまった。

今までの生き方に、深く反省したり、今後の事を考えてみるのは、いい潮時なのかなと、自分勝手に思っている今日この頃です。

編輯 佳木 俊 後記

会報の発行という大任を仰せつかったが、これがなかなかのもの。仕事でも全然携わったことがないので、悪戦苦闘の連続。中村先生はじめ、皆様の貴重な原稿をいただき、会長さんのご指導を仰いでようやくでき上がりました。

この夏は、天候不順で、冷夏となりましたが、春高関係者にとっでは、特別熱い夏だったと思えます。これからも、在校生、OB、関係者が、「ひとつ」になって、応援できる機会が増えることを願っている次第です。(蓮見)

